2026 年 10 月 21 日

公益社団法人SVリーグ

Q. タイでの公式戦に関して有効座席数と実際の購入数はどれくらいだったのか

– 有効座席数は約 6000 席ほど。配券は 10 日がおよそ 2700 枚、11 日が 2400 枚ほど。着券としては初日が 1.909 枚、2 日目が 1,717 枚であった。過去 3 年間（クラブ主管も含め）プレシーズンマッチを実施してきた。大阪ブルテオンが 3 年とも出場している。久保田業務執行理事の感想としては、大阪ブルテオンの時と比べるとチケット販売の初速は芳しくなかった印象。パリ五輪後に大阪ブルテオンとサントリーサンバーズ大阪が実施した際は、バンコク市街地の 5000 人ほどの会場で早くからチケットが売れて熱量も高かった。2023 年、2025 年に実施した際は、3000 人ほど集まっていただき、券売面で苦労したという感覚はなかったとのこと。

MEN の興行をしてみないと分からないが、WOMEN は人気のあるタイ人選手もいたので期待をしていた部分もあった。タイの方々へ、どういった方法でアプローチをすればチケットを購入いただける動機付けができるのかを現地の協力会社等とよりコミュニケーションを取りながら行っていく。もしかしたら現地のイベント会社等にチケットを渡した方が売れるのか、海外の方からも買いやすくする必要があるのかなどを 1 年かけて検証していく。

– もう一点、日本は企業スポーツとしてやっていた時代は動員をかけられて、従業員のプレッシャーになっていたこともある。しかし今回、アリーザ愛知さんからタイ国内のトヨタグループにご案内をしていただき、現地で働かれている方、そのご家族、およそ 800 人来ていただいており、ものすごく喜んで応援されていた。タイには日系企業が多くあるので、現地で働かれているローカルスタッフの方に向けて販売していくことも今回考えても良かったのではと思っている。また、日本だと SV リーグ主管試合はすべて指定席で販売しているが、ブロック指定席にしてみるであったり、チケットの価格設定に関しても 200THB の席は今回売れていたので、今後 MEN に向けて検討していく。集客がきちんとできれば成功だったといえると思う。とはいえ現地メディアからの取材も多く、一歩目を踏み出したことは大きな価値がある。

Q. 2027-28 シーズンもタイで行うことはどれくらい決まっていることなのか

– 当初から中長期的に実施していくと決めているため、この 1 年でやめることはない。今回の総括をして改善すべき点をどうするかなどを決め、実行委員会や理事会で手続きを踏まないと決められないが、来シーズンの開幕期で再び挑戦したい。MEN に関しては、海外交流をやめるつもりはないが、違う形の交流も模索している。今シーズンは（会場確保の影響で）シーズンの真ん中である 1 月に実施することになったため、コンディションの問題があることは認識している。可能であれば先出しの開幕として実施したいが、アリーナの問題等様々なハードルはある。他のアジア諸国にも出ていくことを考えているため、やり方含めて総合的に判断していきたい。

Q. タイ国内に SV リーグの事務所を置くというのはいつ頃の話なのか

– これからの話で、1 月までにやるという話ではない。バンコク市内で日系企業のオフィスの一角をお借りするという形で考えているが、色々とハードルはある。3,4 年はタイで興行を開催したいと考えているため、事務所的なスペースを持っていた方がよいのではと感じている。

Q. タイのスポーツ庁やバレーボール協会とどのような関係であったのか

- SV リーグがタイで試合をする点はとても歓迎された。開催に関して多大なる協力をしていただいた。一方で、今回試合運営は SV リーグの人間が行っていたが、もしかしたらタイバレーボール協会との共催試合とすれば、集客面やメディア露出の効果があったのかもしれないという意見は出ている。

Q. 1 月の MEN までにできる改善点等について

- 最大の懸案事項は集客面をどう盛り立てていくか。チケットの価格、配席、販売方法、販売先に関してはすぐにでも変えていけるところだと考えている。

Q. 現地の日系企業以外の集客方法について

- ファンの方向けに関しては、価格や買いやすさ、プロモーション方法などはこうやればいいという正解が 1 つではないため、試行錯誤しながらやっていく。ただ、3 ヵ月後の MEN に向けて即効性のある方法を考えたときに 1 つの方法として日系企業の方に来ていただくというのがあるのではと考えている。

Q. MEN の東京グレートベアーズ vs 北海道イエロースターズの試合を 1 週早く開催したことについて

- 東京グレートベアーズは有明コロシアムを主体に試合をしたいご要望がある。その中で会場確保できたのが、10 月 17 日、18 日であった。実行委員会、理事会で議論をしたうえで決定をした。また、東京グレートベアーズは昨季、全クラブで最多の入場者数を記録していることから、先出し開幕戦を行っても良いと考えた。

以上